

令和7年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立佐伯支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	学校の状況を冷静に分析し、リーダーシップを発揮して働きやすい環境設定をしている。時代に沿ったニーズに対応し、具体的に明確な学校経営ビジョンが示されている。学校評価の結果に基づき、具体的な取組の状況が数値化され、PDCAサイクルが効果的に実施されている。
	2 組織的運営・責任体制	* 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	主幹教諭が分掌を担当する体制、各学部間の連携ができており、役割を理解して動いている。教職員の間関係作りが意識的に取り組まれており、若い教員とベテランの教員の良い関係が築かれている。
	3 服務監督・危機管理体制	* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施 * ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備	必要なマニュアル整備がされており、火災、地震、不審者に備えた訓練が実施されている。また、ヒヤリハットの素早い共有と分析がなされている。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組 * 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組	学校ホームページは常に更新されており、積極的な発信がされている。地域資源のリスト化による共有・活用が目指されており、佐伯市農政課と連携したり、さいき桜城山ホールや公民館等の清掃に取り組んだりしている。
	5 センターの機能	* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組	巡回相談について、教育相談の案内を配布して周知を図り、広範囲に対応している。また、専門家チーム相談会の事務局として、年2回の相談会を実施している。
学習指導	1 授業	* 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	個別の指導計画が適切に作成され、授業ではよいチーム・ティーチングができています。また、ICTの活用や授業のスタンダードも明確にされている。一部の授業で教え込む指導が見られたため、児童生徒が考え・判断するように促したり、発問したりすることが期待される。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	* 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善	題材配列表や学びのつながりの検討状況が示された。児童生徒の学びや生活に活かすことを常に意識しながら検討されることが期待される。
	3 授業研究・授業改善	* 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	教科別の指導の充実を目指し、積極的に学校研究に取り組んだり、外部講師を招き、専門性の向上に取り組んだりしている。協議による学びを通じ、粘り強く授業改善がされることを期待する。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援	障害者就業・生活支援センターやハローワークとの連携がなされており、地域の資源を有効に活用できるようにしている。就労チェックシートを活用し、生徒の自己評価からの目標設定がされており、本人の適性などが早い段階で把握できている。また、PTAによる職場見学会も実施されている。
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	* 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	ジョブ・コンダクターによる職場実習先の新規開拓や、学校ホームページに企業登録フォームを掲載することにより、積極的に新規開拓に取り組んでいる。また、地域の特性を活かした職業の授業（作業）にも取り組んでいる。
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組 * 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応	子どもを知る会を通して、児童生徒の行動特性や留意点を教職員間で共有し、活用されている。長期休業中のトラブルに注意し、保護者を含めた外部講師による情報モラル研修に取り組んでいる。
	2 教育相談	* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	職員向けにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが周知、活用されている。職場の人間関係作りを進めることにより、教育相談スキルの向上も期待される。
	3 特別活動	* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組	近隣の学校等の交流について、各学部ごとに積極的に実施されている。高等部に関しては、生徒の意見を活動内容に反映させるなど、積極的に関わることが期待される。
	4 安全管理・医療的ケア	* 幼児児童生徒の健康管理のための取組 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制の整備	医療的ケア実施記録表、実施報告書により、体制が整備されている。「ほけんだより」等で児童生徒の体調管理や健康管理の取組がされている。
総合評価	児童生徒が落ち着いて授業を受けており、学校生活を楽しんでいる様子が見られた。校長による説明や学部主事・分掌主任との面談からは、日々の工夫により学校経営・運営が安定して行われていることに加え、ミドルリーダーが教育方針を深く理解し、目標に向かって組織が円滑に機能していることが伺えた。教職員の業務改善については一定の効果が見られるものの、学部間での残業時間に差があるため、さらなる対応が期待される。授業実践については「新大分スタンダード」に基づいた取組が進んでいるが、教師がすぐに教える（指示・注意する）のではなく、児童生徒同士の問いかけや考えを引き出す等の支援をスタンダードにすることが期待される。		
校長コメント	本校では今年度、「授業改善の推進」「地域と連携した教育活動の推進」「互いに活かしあい協働できる職員体制づくり」を重点目標として様々な取組を進めてきた。学部主事や分掌主任等のミドルリーダーが、目標達成に向けて学部や分掌のメンバーに適宜アドバイスしながら正しい方向に導く等、自らの役割をよく理解し主体的に業務に取り組むことにより、一定の成果をあげられた。今後、授業実践においては、教師の役割について再考しつつ、児童生徒への発問や児童生徒の考えを引き出す等、深い学びにつながる支援のあり方について検討していく。地域との連携については、これまでの取組をベースに、来年度からの学校運営協議会での協議などに基づき、新しい取組にもチャレンジしていきたい。働き方改革については、学部間での残業時間に差がある点について、具体的な方策を講じて改善を図っていく。		